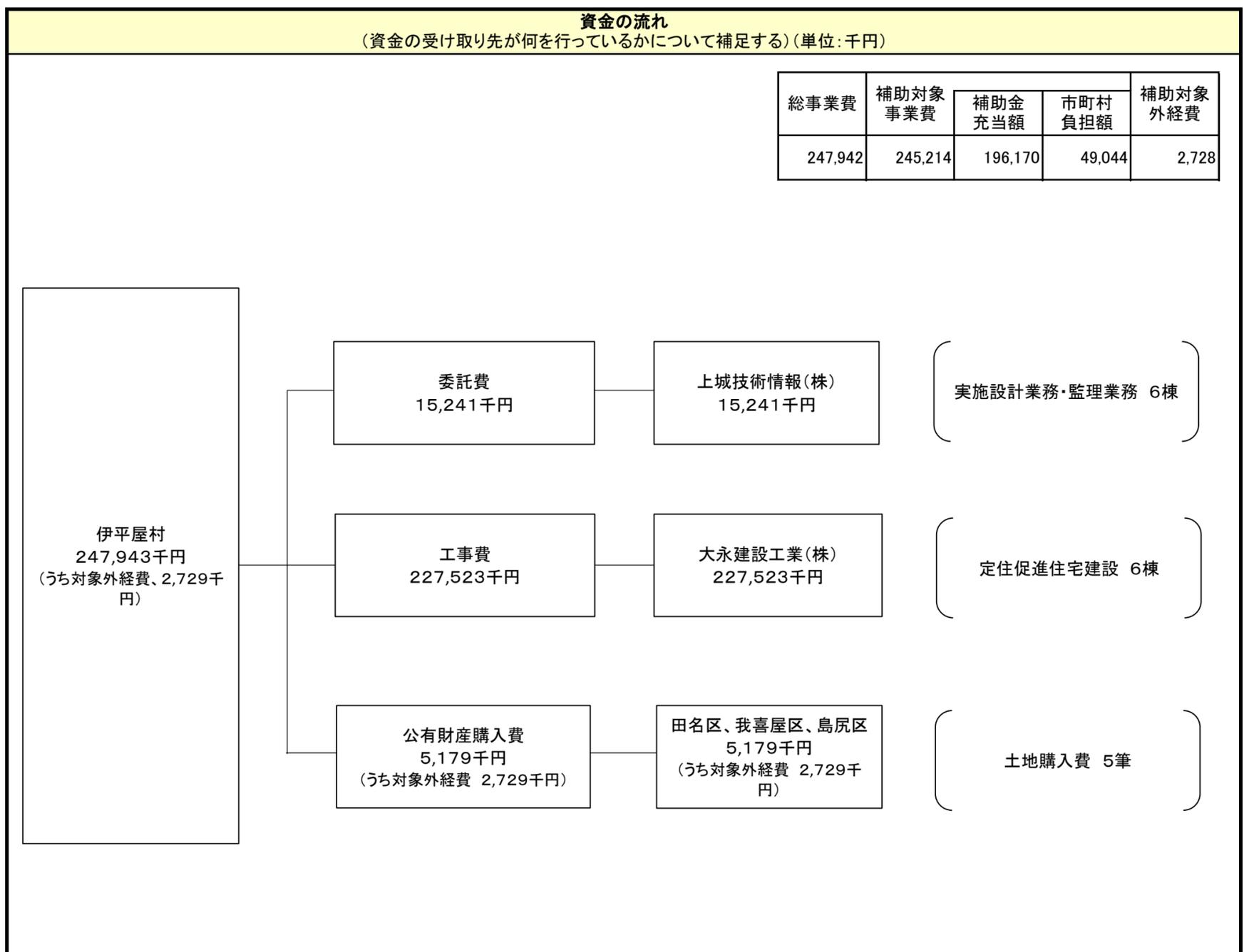


市町村名	伊平屋村						
<b>令和3年度(繰越)沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート</b>							
事業名	農水産業新規就業者用定住促進住宅整備事業	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input checked="" type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	企画財政課	<input type="checkbox"/> 現年事業 <input checked="" type="checkbox"/> 繰越事業	事業実施(予定)年度 令和2~4年度				
事業内容	伊平屋村では中学校までしか無く、一定の若年人口の島外への流出は避けられないため、Uターン、Iターン等の受入に取り組むことで人口減少に歯止めをかけ、島の活力を維持し農水産業の振興により、移住・定住の促進を図り、持続的な島の発展を目指す。						
先導性等に係る取組	<input type="checkbox"/> 自立性 <input type="checkbox"/> 官民協働 <input type="checkbox"/> 離島地域特有の条件不利性に起因するもの	<input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他				
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		令和2年度	令和3年度	令和3年度(繰越)			
	予算の状況	当初予算額	13,344	261,049	0		
		増減額	▲ 6,414	▲ 784	0		
		予算現額	6,930	260,265	0		
		前年度から繰越	0	0	250,029		
		翌年度へ繰越	0	250,029	0		
		計(A)	6,930	10,236	250,029		
	執行済額(B)	6,930	0	247,942			
	うち補助金充当額	5,544	0	196,170			
	不用額	0	10,236	2,087			
執行率(%) (B/A)	100.0%	0.0%	99.2%				
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響により地権者との合意による土地の購入や委託事業者・工事事業者にコロナまん延が確認され工期延長を余儀なくされたため、これに不測の日数を要し事業の一部を令和4年度に繰越し、令和4年度に事業完了した。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	状況調査業務委託	目標	1件				
		実績	1件				
	土地購入	目標		6箇所	1箇所		
		実績		5箇所	1箇所		
	実施設計業務	目標		6棟	4棟		
		実績		2棟	4棟		
	定住促進住宅建設	目標		6棟	6棟		
		実績		0棟	6棟		
達成状況説明	定住促進住宅を整備するため、令和3年度に実施設計業務の2棟完了することが出来た。また、新型コロナウイルスまん延による影響から工事関係者に陽性者が発生し、工期の延長から年度内の完成が困難となったため、事業の一部を令和4年度に繰越しし定住促進住宅を6棟を整備した。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)						後年度目標値 (令和5年度)	
	定住促進住宅 入居者	目標						6世帯
		実績						6世帯
進捗 状況 説明	令和4年度に定住促進住宅の6棟を工事完了することが出来た。このため、令和5年4月に入居者選定委員会を開催し、6名の入居者を決定した。							
取組 の 検証	成果目標に対する原因・要因分析			改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)				
	<p>・定住促進住宅を整備した後は、農業、漁業の一次産業従事者等の継続的な就労等を支援する必要がある。</p>			<p>入居者選考委員会により、委員13名(副村長、村議会議員、JA支店長、漁業組合長等)と入居者の困窮度合いや一次産業従事者等の要件を協議し、入居者の人材を確保し一次産業の振興を図る。</p> <p>・村農業委員会、農林水産課、JA伊平屋支店、伊平屋村漁業協同組合等と新規就労者の雇用先の相談や島内で生計を立てている個人経営者に情報を提供し、担い手としての継続的な就労支援を図る。</p>				
今後の取り組み方針								
<p>本村の農林水産業は重要な基幹産業となっており、定住促進住宅の整備により島外からの担い手を確保し農林水産業の振興を図る。また、台風や自然災害等の発生時においては、住居者の安全確認を行い建物のメンテナンスを実施しつつ長期的な運営を図っていく。また、5カ年の住居提供後は、村内の公共住宅または一軒家等への移転も支援しつつ定住への施策を図る。</p>								



資金 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託・工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模においては沖縄県土木建築部建築設計業務等積算基準に基づき積算したことから適性だったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適性であった。	

